

土木工学・建築学委員会 IRDR分科会（第25期・第10回）、  
IRDR活動推進小委員会（第25期・第7回）、合同会議（第25期・第6回）

議 事 要 旨

1. 日 時 令和5年9月27日(水) 13:00-14:05

2. 会 場 オンライン会議 (zoom)

3. 議 題

0 前回の議事要旨確認

I. 日本学術会議

- 1) 9月20日土木工学・建築学委員会（第25期・第16回）
- 2) 提言の公表と英文版の準備 英文版本体
- 3) 持続会議2023の開催

II. JHoP 関係

- 1) 第1回 SAB 会議の開催

III. その他

4. 出席者（分科会）小池俊雄、佐竹健治、今村文彦、大原美保、川崎昭如、齊藤大樹、鈴木康弘、田村圭子、塚原健一、西嶋一欽、林春男、堀宗朗、小野裕一、西川智  
（小委員会）小浪尊宏、栗林大輔、田端憲太郎、西口尚宏、廣木謙三、深澤良信、村上威夫、山崎律子  
（ともに名簿順、敬称略）

5. 議 事

---

0 前回の議事要旨確認

資料0 IRDR 分科会第9回\_議事要旨（案）230301 の説明

第9回分科会後に議事要旨（案）を回覧することを失念していた。加筆・修正事項があればご指摘いただきたい。

## I. 日本学術会議

### 1) 9月20日土木工学・建築学委員会（第25期・第16回）

資料 1-1-1 総日学第号 - 開催通知（土木工学・建築学 13） の説明

資料 1-1-2 総日学第号 - 開催通知（土木工学・建築学 14） の説明

資料 1-1-3 01-20230920 資料（統合版） の説明

### 2) 提言の公表と英文版の準備 英文版本体

資料 1-2-1 kohyo-25-t351-3 の説明

資料 1-2-2 English Final 230921 clean の説明

- ・ 提言の英語版を日本学術会議の幹事会に提出した。幹事会で承認されれば、英語の Native チェックを行いたい。
- ・ しかし、日本学術会議による Native チェックは年明けになる可能性もあるため、別の方策を検討する必要がある。そのため、Native チェックの経費見積もりを3社で取っており、発注先については林委員長と NIED・岡部課長補佐で検討することにしたい。当面は日本学術会議の反応を待ってから判断する。
- ・ また、幹事会に提出済みの提言の英語版と、持続会議報告書及び東京声明 2023 の原稿における Recommendations の文言を整合させる必要がある。

### 3) 持続会議 2023 の開催

資料 1-3-1 concept-ja の説明

資料 1-3-2 program-ja の説明

資料 1-3-3 持続会議 2023 参加者数 の説明

資料 1-3-4 Final draft clean of the Tokyo Statement 2023rev の説明

資料 1-3-5 東京声明 2023draft 和文ドラフト\_final\_clean\_rev の説明

資料 1-3-6 持続会議報告書（案）JP230926 修正版 の説明

資料 1-3-7 持続会議報告書（案）EN230926 修正版 の説明

- ・ 国内外から対面81名、オンライン419名の参加があった。オンラインの方々とは議論できなかったことが残念。
- ・ 各モデレーターのご尽力により、テーマ・セッションの報告がまとまり、大変力のある文言（声明文）ができあがった。壊滅的災害とは何かについて、本質的な議論を深めることができた。
- ・ ハイレベルの方々もご自身の言葉での興味深い議論があり、最終的にはハイレベルの方々のコミットも得て、東京声明 2023 を国際的に発信することができた。今後うまく活用していきたい。
- ・ 日本学術会議による持続会議報告書の〆切は11月下旬なので、それまでに上述の英語 Native チェックを完了させたい。すなわち、日本学術会議によるネイティブ・チェックがそれまでに

完了する見込みがない場合は、別途こちら側でネイティブ・チェックを完了させる。

➤ その後、日本学術会議のウェブサイトに公開しているものを、最新版に差し替える。

- ・ 今後の流れは、以下の通り。
  1. 幹事会から承諾を得た後に、分科会委員の皆様に照会をかける。
  2. ネイティブ・チェックをかける (by 日学、もしくは、by こちら側)
  3. 11月末に間に合うように、英文を固めたい。

## II. JHoP 関係

### 1) 第1回 SAB 会議の開催

資料 2-1 1stSABmeeting\_230926 の説明

- ・ ICoEとしてSABのメンバーを決めて、そのうち4名が参加し、IPO HAN氏もゲストに迎え、第一回SAB会議を開催するところまで進んだ。
- ・ IRDR分科会 (NC)、JHoP、ICoE-Coherenceのこれまでの活動を振り返りながら、今般の提言や持続会議へのつながりを確認し、また今後の活動について、IRDR Phase IIの動きもおさえつつ、SABメンバーとJHoPメンバーが議論した。これからもSAB会議を定期的に行い、活動を続けていくこととされた。

## III. その他

- ・ 林委員長および世話役の小池委員から第25期IRDR分科会およびIRDR活動推進小委員会の関係者およびその活動に関する御礼が伝えられた。
- ・ 10/01から第26期が開始となり、10/02～10/04にかけて開催される総会で今後の新たな枠組みが決まる。IRDR分科会とWFEO分科会は継続されることが、国際委員会で合意されている。
- ・ 山崎委員が防災科研から一般財団法人 土地総合研究所に異動。
- ・